

# いるまでいあ

入間公連だより第67号

発行 入間地区公民館連絡協議会  
編集 情報委員会  
発行日 平成29年3月28日

## ◆第31回入間地区公民館研究集会が開催されました

【日 時】 2月3日（金） 13時開始～16時終了  
【会 場】 所沢市松井まちづくりセンター 松井公民館



第31回入間地区公民館研究集会が、所沢市松井まちづくりセンター松井公民館にて開催されました。今回は、「高齢者の力を地域で活かすための公民館の役割とは」というテーマのもと、公民館職員・公民館運営審議委員を中心とした117名が来場しました。

開会式は、斎藤理事司会のもと開会を川辺副会長、主催者あいさつを宮崎会長、来賓祝辞を西部教育事務所鈴木孝雄教育支援担当指導主事及び所沢市教育委員会美甘寿規教育総務部長が行い、終了後講演に移りました。

講演は、国立教育政策研究所総括研究官である笹井宏益氏より、まず社会教育の基本となっている寺中構想の概念等についての説明が行われました。後半、高齢者の力を地域で活かすための公民館の役割として「学習活動としてのボランティア活動への参加及び自主的な社会参加へのきっかけ作り、高齢者の知恵をいかに社会に還元して行くかを考えて行く必要がある。ただし、公民館はファシリテーターとして中立的な立場から調整役として関わって行くことが大切である。」との講演内容でした。

質疑応答では、高齢者と学校との連携についての事例発表が行われ、活発な意見が交わされました。



# ◆入間地区公民館連絡協議会 県外視察研修会が開催されました

【日 時】 12月2日（金） 10時30分開始～12時終了

【会 場】 佐倉市立中央公民館〔千葉県〕

【参加者数】 24名

【テ ー マ】 『佐倉市民カレッジ』から学ぶ

〔文部科学省：第68回優良公民館表彰『優秀館』受賞〕



入間地区公民館連絡協議会では、昨年12月2日に各市町の公民館職員24名が参加し、千葉県佐倉市中央公民館への視察研修を行いました。

佐倉市立中央公民館では、高齢者教育事業として昭和53年5月より始まった「佐倉市高齢者短期大学校」を前身に四年制高齢者大学校の「佐倉市民カレッジ」を平成4年に開設しています。

事業の趣旨としては、年々増加する高齢者が社会の中で、健康で生きがいを持ち、地域との連携をもちながら一人一人が住みよいまちづくりを考え、「実践をとおして生涯学習のできる場」となることを目的に、また卒業後も地域に関わり生き生きとした活動ができるスキルを身につける事を目標としています。前半の2年間は、「であい課程」として主に一般教養を学び、後半の2年間は、「専攻課程」として講義と実践をとおして卒業後の地域での活躍も視野に入れていきます。

市民カレッジからは、これまで20期、約1,800人が卒業しており、多くの卒業生が実際に市民活動団体を組織したり、福祉施設および学校ならびに公民館等で様々な活動をしています。わかりやすい資料と佐倉市中央公民館の方々の丁寧な説明で、たいへん内容のある研修でした。また、実際に市民カレッジの講義をしている教室を見学しました。

午後には、市内にある旧武家屋敷群（佐倉藩士の住居）を見学し、その際2名の市民ガイドが付き、丁寧でわかりやすい案内をしていただきました。ガイドの方に話を聞くと「佐倉市民カレッジ」を卒業され、市民ガイドとして活動しているということでした。「佐倉市民カレッジ」を受講した理由について伺うと、「若い頃は、転勤などで地元（佐倉市）に居ないことが多かったのですが、定年後は大好きな地元になにか関わりをもったことをしてみたいという思いがあって受講した。」とのことでした。

市民と公民館（行政）が連携し一体となって、「実践を通して生涯学習のできる場」・「各々が地域づくりを考える場」として、すばらしい事業だと思いました。



# ◆公民館学校（コミュニティ学習支援養成課程）が開催されました

—語ろう・学ぼう・そしてつなごう— わがまちの公民館事業《全2回》

## 第1回

- 【日 時】 2月22日（水） 13時30分開始～16時終了  
【会 場】 ふじみ野市立上福岡公民館  
【参加者数】 14名  
【テ ー マ】 『一語りあおう—私の担当する学級・講座』  
【講 師】 平川 景子氏（明治大学文学部教授、全国社会教育職員養成研究連絡協議会理事）  
〔ファシリテーター〕 きしの  
※両日とも 来住野 清子氏（昭島市教育委員会社会教育主事、全国社会教育職員養成研究連絡協議会理事）



ラウンドテーブルディスカッション（円卓を囲み話題提供者のテーマにより自由に意見を交換しながら議論する）により、3グループに分かれてファシリテーターに促されながら各々が持ち寄った事業について自由に意見交換を行いました。現在抱えている疑問や課題、またその解決案など出し合いました。

『障害者青年学級』『60才からのスマホ講座』『高齢者向け講座』『大学連携事業短距離走講座』『タッチケア講座』ほか、多様な事業がテーブルにのせられました。

講師からは、「年間で継続して行われている事業が多く持ち寄られるかと想定していたが、単発の事業が多かった。しかし、時間をかけて地域がどのように力をつけていくのか、行政の中で社会教育が担う役割は何かなど、単年度に縛られない取り組みが必要であり、今日の皆さんからもそのようなお話が出ていたように思う。悩みの中には、人数がなかなか集まらないとの話もあったが、質への評価も大切にしたいと思う。今回のように少人数で語り合う手法は、内容を深めるうえで有益であり、そこから提案なども生まれると思うので、職場などでも活用されるとよいと思う。」といったまとめがありました。

今回参加させていただき、同じ事業でも各市町によって予算や内容が全く違うことを知ることができ、固定化されつつあった事業に対して柔軟に再検討してみようと思うよい機会になりました。職場でも共有したいと思いました。

## 第2回

- 【日 時】 3月9日（木） 13時30分開始～16時終了  
【会 場】 狭山市立中央公民館  
【参加者数】 17名  
【テ ー マ】 『一学びあおう—公民館職員の役割—』



1回目の公民館学校に引き続き、2回目においてもラウンドテーブルディスカッション（円卓を囲み話題提供者のテーマにより、自由に意見を交換しながら議論する）により、公民館職員のあり方について、各々の地域のかかわり方や特色、講座などを出し合い、意見交換を行いました。

各地域により公民館の形態や職員体制も大きく違い、地域が温かく迎えてくれたという意見もあれば、地域との関わり方が大変であるという意見など、皆が持ち寄った問題点や悩みなどを、自分の公民館に置き換えながら解決策を話し合う場面もありました。

地域の身近な施設である公民館をどのように充実させていけばよいかを公民館1年目の方から5年以上という経験年数も違う方々での意見交換の中で、経験が増すごとに、わが町の地域性が解ってきて、ニーズにあった講座を企画したところ、集客数を上げることができたという話や、自分が求めていることと地域のニーズが合致して、講座が成功したという話を聞き、自分の色を出すことも講座の発展のチャンスになることが解りました。

また、各々の担当している事業のチラシを持ち寄って特色などを発表し、疑問点や問題点などは質問するなど活発な意見交換となりました。

各地域の課題は何か。とらえる視点が大切であり、その情報を地域と共有し、公民館の活性化を図ることが、地域の活性化に繋がるということを考えさせられる講座となりました。

# ◆入間地区公民館連絡協議会 職員研修会が開催されました

【日 時】 1月24日（火） 13時30分開始～16時終了

【会 場】 三芳町中央公民館

【参加者数】 55名



今回の合同研修会は、埼玉大学教育学部教授安藤聡彦氏を講師にお迎えし、『「政治的」問題と公民館活動―「社会教育法第二十三条 公民館は次の行為を行ってはならない」ということの意味について考えてみよう―』をテーマとして学習いたしました。

講義では、先生がさいたま市公民館運営審議会委員長として携わっていた九条俳句不掲載事件を紐解きながら、公民館とは何か、どうあるべきかをお話いただきました。近年は様々な事件や世情から公民館で政治的な問題を取り扱うことを避けてしまいがちですが、公民館のなりたちや社会教育法に照らせば、公民館が『生活に即した学び』として政治的な問題を取り扱うことはむしろ自然であるということや、公民館が物事を判断するのではなく、地域として話し合いや検討をする場の担い手であることが望ましいことなど、公民館職員として年代を問わず心に留めておかなければならないことをわかりやすく解説していただきました。

質疑応答では積極的に質問があり、公民館活動における政治的問題について参加者の関心の高さがうかがえました。

これらのお話は、今後の公民館運営の方向性を示す一つの指針として大いに参考となりました。



## ●キッズ・アート・ギャラリー (中央公民館)

中学生から高校生の子ども達が自ら企画・運営し、子ども達の社会体験の機会を拡げることが目的とした事業です。21回目となった今回は「アート ～未来に向けて～」をテーマに、子ども達のアート作品の展示や、幼児や小学生にわかりやすく楽しく工作を教える中高生の姿が見られ、会期中は約1,400人が来場しました。



ワークショップ「紙コップの(注)インスタレーション」では、18,000個の紙コップを子どもから大人までが夢中で積み上げていきました。みんなが絵を描いた紙コップは日本や世界各地を旅した後、9月に国立新美術館で展示されました。

また、平成28年は入間市制施行50周年だったことから、入間市の特産品である「狭山茶」で50周年のロゴマークを描き、作品からは、お茶の香りが漂いました。



### — インスタレーションとは — (注)

現代美術における表現手法の1つで、オブジェなどを置き、場所や空間全体を作品として体験させる芸術のこと。

## ●家庭教育セミナー「南極の氷に触れてみよう」(久保稲荷公民館)

地元の「子ども会育成会連絡協議会」と一緒に、毎年テーマを変えて開催しています。今年、自衛隊埼玉地方協力本部の協力により、砕氷艦や極地での仕事について学びました。子ども達は、南極の氷に触れたり、氷が解けて空気が出て行く際の音を聞いたり興味津々の様子でした。

